

2021年2月7日（日）

主 題：「まったくの誤解です！」
— 苦しみから得る善き物 —

テキスト：第1 ペテロの手紙3章17-18節

はじめに

- ・現在の最大の問題は、コロナパンデミックです。それも世界的に拡散し、感染者数はすでに1億人を突破しました。問題解決のために速やかなワクチン接種が開始されることを切願しております。
- ・ところで、このコロナパンデミックに関することで「フェイク・ニュース」（偽りのニュース）が、SNS上で飛び交い。社会に混乱を与えていることはご存じでしょう。読売新聞の全国世論調査によれば、日本で23%がネットの偽情報を信じたと答えました。約5人に1人が偽情報を信じたことは、偽情報はもはや身近な存在となっていることです。
- ・総務省が昨年5月に実施したネット利用者調査から、多様な偽情報が広がり、信じられていたことがわかりました。例えば、コロナ予防について；
「こまめに水を飲むに効果がある」と信じたのは回答者の28.7%、
「ニンニクを食べる」は14.8%、「納豆を食べる」が9.6%、
「漂白剤を飲む」という危険な嘘も3.1%が
「緊急事態宣言が出たら3週間ロックダウン」の偽情報15.5%、
「中国が『日本肺炎』という呼称を広めようとしている」28.8%
「新型コロナウイルスは中国の研究所で作成された生物兵器」21.0%、
「発熱症状のある武漢からの旅行客が、関西国際空港の検疫検査を振り切り逃げた」21.5%。
- ・これらは全てフェイク・ニュースでした。コロナ関連の確かな情報がほとんどない状態で、つい信用してしまい悔やむ人々は多くいます。
- ・欧州でもフェイク・ニュースはありました。英国では次世代通信規格「5G」の電波が感染拡大の原因とのフェイクニュースが出回り、通信設備が放火される事件が相次ぎました。
- ・中東イランでは、燃料用アルコール「メタノール」を飲むと予防効果があるというデマを信じ、500人以上が中毒死したと報じられました。
- ・SNSは非常に便利ですが、大変危険でもあります。これらのニュースは「まったくの誤解です！」人は何を信じたらよいか迷路に入っています。
- ・SNSが広く拡散し、なぜこのようになったか専門家は次のように指摘しています。
 - ① コロナ禍で仕事が減り、自宅でSNSを見る時間が増えた。
 - ② 自動翻訳機の精度向上で言語の壁を超えた
 - ③ 感情伝染（みんなが言っていると）

- SNS の発展によって、正しい情報と、偽情報が飛び交い、人類はこれまでにない苦しみに出会っています。今、どう対処すべきか、真剣な取り組みが必要となってきました。
- そこで偽情報を読み解くリテラシー(literacy)教育が重要と言われます。リテラシーとは、読み、書き、能力、識字力のことです。フィンランドでは、すでにリテラシー教育が先を行っているようです。
- ところで、私たちが学んでいるペテロの手紙第一を貫いているテーマは、「キリス者の苦しみ」です。今の時代の苦しみは、当然ながらペテロの時代(約2千年前)とは違いますが、私たちにも苦しみ、苦難はあります。
- この第1ペテロの手紙は、「苦しみ」「苦難」という言葉は18回も出てきます。1ヨハネの手紙(ほぼ同じ長さの文書)は、そのような言葉は出てきません。7ページ弱のヤコブの手紙には2回。ベブル人への手紙(3倍近い長さの文章)には11回。このよう考えると、この短い書簡は、いかに多いかがお分かでしょう。
- そこで今日は、キリス者の苦しみについて次の2点から考えてみましょう。

大切なポイント

1. 苦しみを受けられたイエス・キリスト

1) 罪のために

- ペテロは17節でこのように述べました。
3:17 神のみこころであるなら、悪を行って苦しみを受けるより、善を行って苦しみを受けるほうがよいのです。
- この言葉を受けて、「善を行って苦しみを受けた」例として、3章18節でイエス・キリストの苦しみに言及することになります。
3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。
- キリストは手を縛られ、衣をはぎ取られ、鞭で打たれ、唾をかけられ、ののしられ、手足を釘で打ち抜かれ、十字架刑で命を奪われました。しかし、ペテロは「キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。」と述べました。「罪のために」とはどういうことでしょうか。イエス・キリストご自身の罪でしょうか。いいえ、「正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。」
- 正しいお方が、正しくない者のために苦難に会われました。ですから、それは「身代わり」でした。罪のないお方が、私たち罪ある者のために「身代わりになられたのです。」キリストが負われた苦難は、身代わりの苦難で、私たちの代わりに罪の代価を払われたのです。
- 本来、私たち自身が負わなければならない苦しみを、キリストは私たちの身代わりに受けてくださいました。ここで、一つ見落としてはいけない言葉があります。それは「一度」という言葉です。

2) 「一度」

- ・キリストが私たちの身代わりとなって死なれたのは、「一度」です。「ただ一度」です。身代わりの死を繰り返す必要はありません。なぜなら、完全な神の子イエス・キリストが身代わりになられたことによって、人類の救いは完了したからです。聖書はこう述べています。
- ・ 6:10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。ローマ
- ・ 7:27 イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。

ヘブル

- ・ 10:10 このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。

ヘブル

- ・キリストの身代わりの死は、一度だけで十分でした。罪のない神の御子の死ですから、ただ一度の死で、私たち人類の罪を贖うことができました。では、キリストが一度十字架の死という苦しみを通られたことには、明確な目的がありました。それが次のポイントです。

2. イエス・キリストの死はあなたを神に導くため

3:18 それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

- ・このみ言葉にキリストに、一度だけ十字架の苦しみを通られた目的があります。それは「肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。」

1) 肉においては

- ・肉においてはとは、人間の目に見える世界のことです。物質的な領域においては「死に渡され」ました。確かにイエス・キリストは今から約2千年前、人間の目に見える姿で生まれ、数多くのわざを行われました。そして十字架で処刑されました。これが「肉においては死に渡され」です。

2) 霊においては

- ・ところが、目に見えない霊的な領域においては、ペテロは「生かされた」と述べました。つまり、イエス・キリストは復活されました。キリストの復活は確かにからだの復活でした。しかし、復活後のイエス・キリストのからだは違いました。
- ・復活の証人について、パウロは次のように述べました。1コリント15章
15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、
15:4 また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、

15:5 また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。

15:7 その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。

15:8 そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。

他にも復活の証人は多くいたことを、聖書は記録しています。

- ルカ福音書 24章は次のように記しています。

24:13 ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタディオン余り離れた、エマオという村に向かっていた。

24:14 彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。

24:15 話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。

24:16 しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった

- この2人は復活のからだをもって自分たちの前に立っておられた主を見ました。しかし、そのからは通常のからだとは違っていました。彼らは主イエスを見ましたが、主イエスとは分かりませんでした。イエス・キリストは十字架で死なれた以前とは、異なるからだをお持ちでした。

- ある時は、施錠した部屋の中に入って来られました。「瞬間移動」も可能なからだでした。ようするに、物質的な世界のからだとは異なるものでした。

パウロは第一コリント人への手紙でこのように述べました。

15:44 血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

1コリント

- このように、十字架の苦しみを通って死なれたこと、そして霊のからだに復活されたことを通して、私たち自身が神のもとに立ち返ることができるようになりました。それで、ペテロはこう言いました。

3:18 それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。 1 ペテロ

- このように、神と人との間に横たわる深淵を越えて、キリストは私たちを神のもとに導いてくださいました。イエスは手を引いて、真の神のもとへ連れて行ってくださいました。感謝します。

- ここで、私たちは17節の聖句へ戻しましょう。

3) 苦しみから得る善き物

- もう一度、はじめの聖句へ戻しましょう

3:17 神のみこころであるなら、悪を行って苦しみを受けるより、善を行って苦しみを受けるほうがよいのです。

- これは、善を行ったキリストさえも、大きな苦しみにあわれた事実を思い起すように、ということです。キリストの模範を心に留めなさいということです。

- それはキリストの苦難が私たちに救い（すばらしい結果）をもたらしたように、苦難を通して善き物が生み出される現実があることを教えてくださっています。

- 私たちはできれば、痛みや苦しみを避けようとする思いがあります。
快適な生活、困難や苦しみのない生活、面倒なことの少ない生活を求めてきました。しかし、痛みや苦しみを避けることができない場合もあります。それは今回のコロナパンデミックでしょう。自分の力では、避けられない問題です。
- しかし、この18節のみことばを覚えてください。
それはイエス・キリストはどれほど大きな犠牲を払ってくださったかということです。罪のない、正しい方であるのに、罪人としてさばかれ、私たちの身代わりとなり十字架で死んでくださったキリストです。私たちはこのお方のおかげで、神のもとに来ることができました。このお方の犠牲の苦しみによって、聖なる神と交わりが可能となり、神の子として生きることができるようになりました。
- 皆さん。私たちは面倒な問題が起こってきたり、病気がみつかったり、苦しみが生じたりすると、私たちは神から見捨てられたように思うことがあります。
それはまったくの誤解です。キリストの苦難が人類の救いを実現したように、私たちが苦しみにあうことが、善き物を生み出すのです。
- パウロはローマ人への手紙5章でこう述べました。
5:3 それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、
5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。
- イエス・キリストの苦難は、見るに耐えない恐ろしいものでした。しかし、それによって私たちは神に導かれました。同じように、私たちの試練や苦難も、私たちが神を深く知る機会となります。あるいは、神に導かれる機会となるために用いられます。そこに神の摂理があります。
- 世界中を巻き込んだコロナ・パンデミックと大試練下で、私たちは心を痛め、気落ちしている方も少なくありません。しかし、「それは誤解です！」
3:18 それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。 1 ペテロ
- キリストが肉においては死に渡されましたが、霊においては生かされました。それは私たちを神に導くという目的でした。苦しみ、苦難、そこには神の目的があります。それはあなたを神に導くためです。
- 私たちは今の苦しみ（苦難）を誤解して受け止めてはいけません。
いいえ、神はすでに苦しみから得る善き物を準備しておられます。それは信仰によってのみ、受け止めることができます。

ま と め

主 題：「まったくの誤解です！」

—苦しみから得る善き物—

- 今日、主様は私たちにお語りくださいました。私たちは現在、フェイク・ニュースを含め、多くの情報が飛び交う時代に生かされています。いったい、何を信じればよいか、だれを信じればよいか識別が難しい時代です。

- ・しかし、ここに永遠のベストセラー、神の書である聖書があります。聖書は次のように勧めています。

3:18 それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。 1 ペテロ

* God bless you !